

第 252 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2012 年 4 月 26 日(木) 17 時 30 分~19 時 30 分

場 所: 創立 30 周年記念棟大会議室「常念岳」

演 者: 高橋 治 氏・高橋 未哉子 氏 (高橋矯正歯科クリニック)

タイトル: 口腔筋機能療法 (MFT) の実際 -機能と形態の深い関係-

口腔筋機能療法 (MFT) は「歯列を取り巻く筋肉の機能を改善する訓練法」である。歯列は口唇や舌などの筋肉から絶えず圧力を受けており、このバランスが崩れていると様々な歯科的な問題が生じる。

歯列・顎骨の成長発育は、両親から受け継いだ遺伝的な要素と、咀嚼・嚥下・発音・呼吸・習癖・態癖・姿勢・栄養などの環境的な要因により影響を受ける。

このうち、環境的な要因は日常生活の中で改善が可能なが多く、MFT による機能訓練により矯正装置を使わずに歯列が整ってくる現象がしばしば認められる。また、矯正装置と MFT を併用することにより、矯正治療の進行がより円滑になり、治療後の歯列の安定も得やすい。

MFT は、1) 個々の筋肉の訓練、2) 咀嚼・嚥下の訓練、3) 安静位の訓練の 3 つの要素で成り立ち、必要により、発音、呼吸、姿勢、習癖、態癖等の指導を加える。

個々の筋肉の訓練では、弛緩した筋肉の強化だけでなく、緊張しすぎている筋肉をリラックスさせ、全体的に調和が取れた状態を目指す。

咀嚼・嚥下の訓練では、水や食べ物を摂取する際の筋圧のバランスを整えることを目指す。MFT における咀嚼・嚥下の訓練は、「摂食・嚥下障害」の治療とは、目的が異なる。「摂食・嚥下障害」とは、「水や食べ物が飲み込めなくなったり、肺へ入ったりすること」で、治療の主目的は「栄養失調や誤嚥性肺炎を防ぐこと」である。これに対し、MFT の対象患者は、水や食べ物が飲み込めないということではなく、「筋肉の働きにより歯科的な問題が生じている」ということである。

安静位の訓練では、「いつも口唇と舌が正しい位置にある」状態を目指す。安静時における口唇と舌の位置は歯列に与える影響が特に大きい。MFT が目指す正しい安静位とは、「口唇はリラックスした状態で閉じ」、「舌はリラックスした状態で口蓋に挙上し」、「臼歯は離れている」状態である。

正常な歯列形態を維持するための環境作りである MFT により、歯列形態が自然に改善された症例や、矯正治療後の長期安定性が得られた臨床例を数多く提示し、機能と形態の深い関係について考えたい。

(簡単な実習が行われます。参加者の方は手鏡の用意をお願いします。)